

第2回 まいぶん講座「いにしへの器 Part 1」

鳥取県埋蔵文化財センター

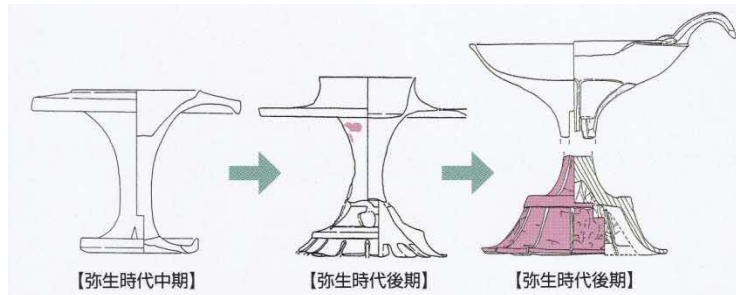
20210619 馬路 晃祥

1 今日のテーマ

・花卉高杯の時期的な変化

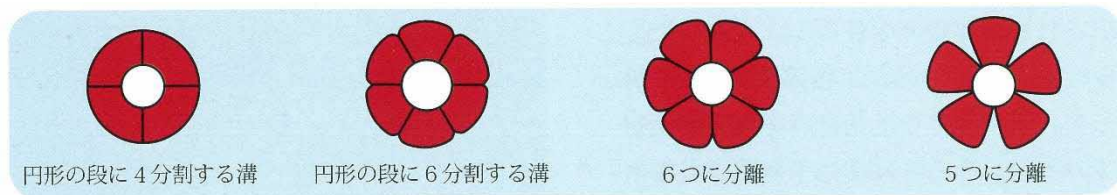
弥生時代後期（1世紀後半）から古墳時代前期（4世紀）の再検討

【形態の変化】



鳥取県埋蔵文化財センター編 2005『弥生の器』

【花卉の変化】



鳥取県埋蔵文化財センター編 2008『弥生の至宝～花卉高杯とその背景～』

・他遺跡出土品との関係の再検討

継続的／一時的？

何が移動したのか？

2 花卉高杯の変遷

（1）鳥取県東部（特に気高郡）に豊富な資料

青谷上寺地遺跡 約 20 点

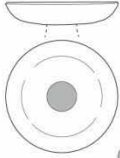




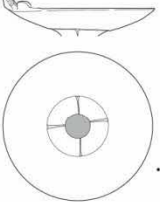

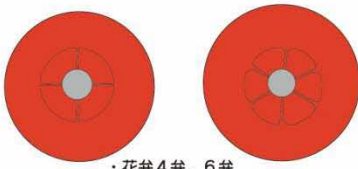
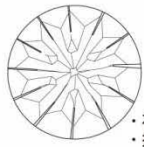
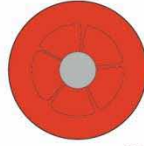



青谷横木遺跡 2 点

乙亥正屋敷廻遺跡 6 点

（2）変遷

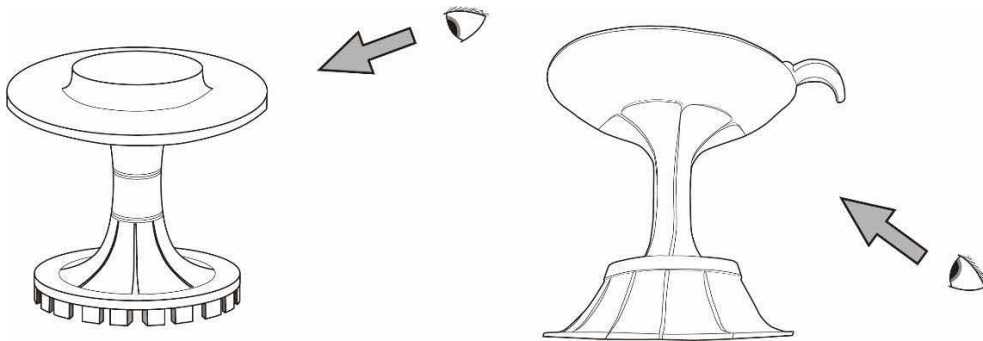
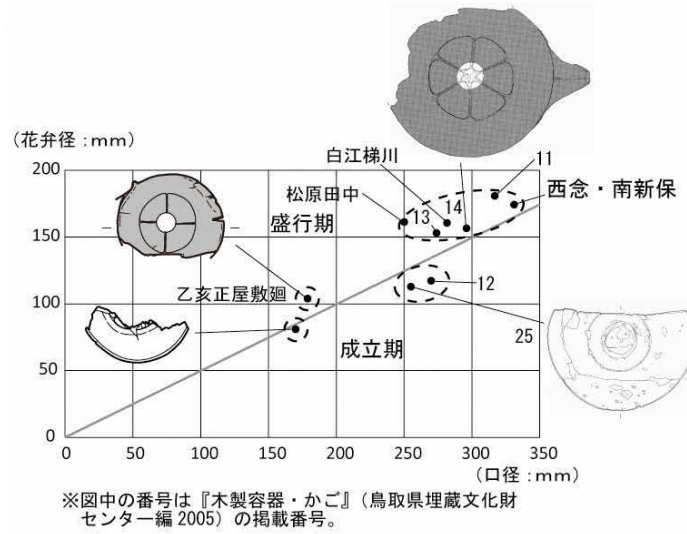
・型式学的検討と出土層位による検討

花卉高杯の変遷

	杯部裏側の変化 (模式図)	脚部裏側の変化 (模式図)
弥生時代中期後葉～後期中葉	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉無し ●：脚部 (以下同じ) 	  <ul style="list-style-type: none"> ・多数に分割
	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉無し ・円形の凹み 	 <ul style="list-style-type: none"> ・8分割
	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉4弁 (円形の凹み内を分割) 	 <ul style="list-style-type: none"> ・8分割 (花卉数の2倍) ※内面の形状は推定
弥生時代後期後葉～末葉	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉4弁、6弁 ・円形の凹み無くなる 	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉数の2倍に分割 ・接地面が三角形又は五角形で先端が尖る
	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉4弁、5弁、6弁 	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉数の2倍に分割 ・接地面が多角形で先端が尖らない
古墳時代前期初頭	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉4弁 	 <ul style="list-style-type: none"> ・花卉数の2倍に分割 ・接地面が円環状

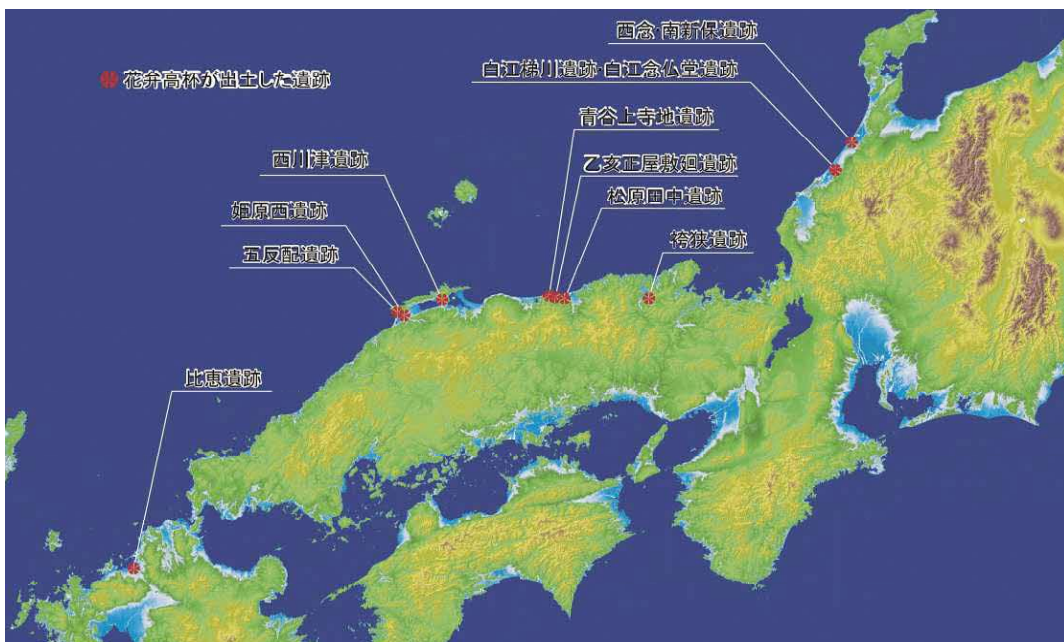
(4) 変化の背景

- ・ 文様を付ける意味



3 分布と並行関係

- ・ 日本海沿岸地域に分布（石川県、兵庫県、島根県、福岡県）
- ・ 多くは弥生時代後期後葉（2世紀後半）のもの



4 モノの移動、人の移動、技術の移動

(1) これまでの説

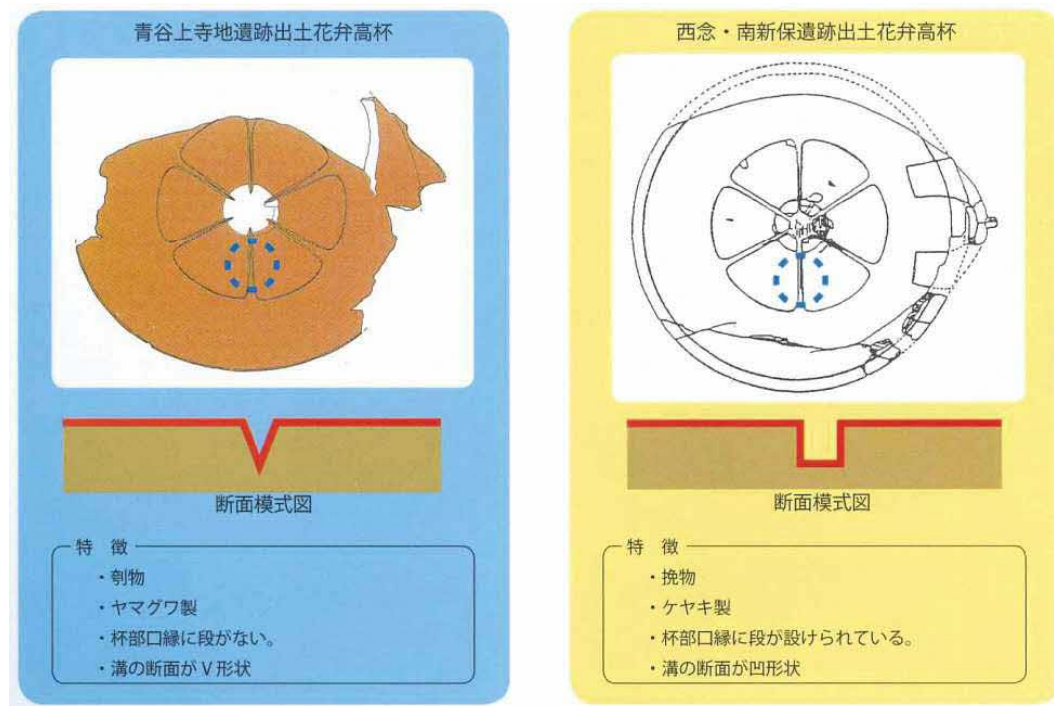
- ・青谷上寺地遺跡での製作と配布説（一元説）と各遺跡で製作説（多元説）

【一元説の論拠】樋上昇氏（2008 など）

青谷上寺地遺跡では多数出土するが他遺跡では1点しか出土しない
花卉高杯は輸出品

【多元説】茶谷満氏（2005 など）鳥取県埋蔵文化財センター（2008）

- ・樹種の違い（ヤマグワ／ケヤキ）
- ・形態的特徴の違い
- ・製作技術の違い（割り物／挽物）



鳥取県埋蔵文化財センター編 2008『弥生の至宝～花卉高杯とその背景～』

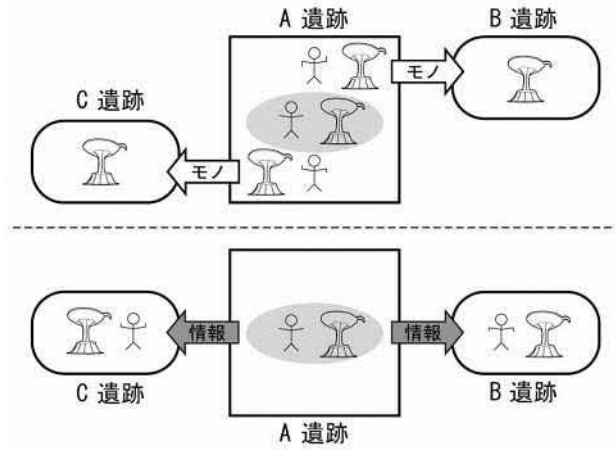
(2) 樹種の違い

- ・青谷上寺地遺跡の花弁高杯の樹種（ヤマグワ＞ケヤキ+カヤ）
- ・西念・南新保遺跡（ケヤキ）、白江梯川遺跡（ヤマグワ）、袴狭遺跡（カヤ）、姫原西遺跡（カヤ）、乙亥正屋敷廻遺跡（ヤマグワ）、松原田中遺跡（ヤマグワ）

⇒青谷上寺地遺跡ではヤマグワの利用が多いとはいえ、他の遺跡で利用された樹種は、青谷上寺地遺跡の樹種利用のバリエーションを逸脱していない。

(3) 形態的特徴の違い

- ・評価が難しい



※上図：A 遺跡で複数工人が製作し、それぞれの工人が製作したモノが B 遺跡と C 遺跡へ移動
 下図：A 遺跡のモノに関する情報が B 遺跡と C 遺跡へ移動しそれぞれの遺跡で製作される

⇒在地に特徴的な素材や技術が使われている、特徴的な形態が継続的に維持されている、他のモノと共通する要素が取り入れられている

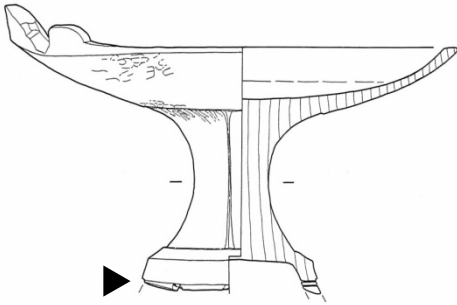
(4) 製作技術の違い

- ・ 削り物／挽物か？
 - ① 平面形が正円かどうか
 - ② 同心円状の加工痕の有無
 - ③ 轆轤に固定する際の爪痕
- ・ コンパス状道具の利用？

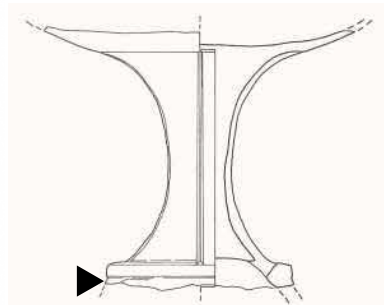


5 花卉高杯の廃棄

- ・分割廃棄の共通性（脚裾部付け根、脚柱部、杯部付け根）



青谷上寺地遺跡



姫原西遺跡

6 まとめ

- ①青谷上寺地遺跡から人（工人でない場合も含む）とモノがセットで移動する
- ②青谷上寺地遺跡から人（工人）が移動し、現地で製作する場合
- ③他の遺跡から青谷上寺地遺跡に来て、製作から廃棄に至る過程を体系的に習得した人が地元に戻って製作する等の可能性

参考文献

工楽善通 1989 「木製高杯の復元」『古代史復元5—弥生人の造形—』講談社、98—99 頁

島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター編 1999 年『姫原西遺跡』島根県教育委員会

鳥取県埋蔵文化財センター編 2005 『弥生の器』

鳥取県埋蔵文化財センター編 2008 『弥生の至宝～花卉高杯とその背景～』鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県埋蔵文化財センター編 2005 『木製容器・かご』鳥取県埋蔵文化財センター

樋上昇 2008 「花卉高杯の果たした役割」鳥取県埋蔵文化財センター編『弥生の至宝～花卉高杯とその背景～』鳥取県埋蔵文化財センター、24—25 頁

茶谷満 2005 「青谷上寺地遺跡出土の木製容器」鳥取県埋蔵文化財センター編『木製容器・かご』鳥取県埋蔵文化財センター、5—92 頁

茶谷満 2013 「青谷上寺地遺跡出土の木製容器」角田徳幸編『木製品から見た古代の暮らし』島根県古代文化センター、49—61 頁